

★ 外出規制と給付金の対象者に対する疑問を
「効率と公正」の観点から考える

弁護士 荒川武志

■高校生対象（1～2時限）

授業の目標

1. 一つの制度を作るには、複数の立場に立った多面的な視野が必要であることに気付く。
2. 一定の財源のある制度について、可能な限り無駄なく、より納得感のある配分をするための方法を考え、これを通して、効率と公正の観点から制度やルールを作るための資質や技能を身につける。
3. 絶対的に正しい制度は存在せず、種々の意見を出し合うことによって改善していくべきものであるということを理解する。

■この授業案について

今回は、標記のとおりテーマがまず決まっていますが、そこから、何か授業を作ってほしいということと言われたわけですが、ほぼ、すべての人が直面している政治的な問題を授業にするというのは、なかなかない経験です。むしろ、こうした現実的な問題を取り扱うことは、学校現場では避けられてきたと言っても良いかもしれません。しかし、すべての人が直面しているからこそ、誰もがどこかで考えたことのある問題で、それをテーマにすることは、生徒たちがより社会や政治に興味を持ち、積極的に世の中を考える契機になることは、間違いないことだと思います。また、将来の社会を担う「主権者」となる生徒たちに、こういった現実的な問題を考えてもらうことは、必要なこととも言えるでしょう（欧米におけるシティズンシップ教育においては、現実の問題をテーマに考えさせることが、普通に行われています）。

ただ、こうした問題を扱う場合、政治的中立性の問題を避けて通ることはできません。

今回のテーマの場合、世の中に様々な批判や疑問が渦巻いているわけですが、こうした批判や疑問を受け、その批判の是非を考えてみようなどという授業にしてしまえば、最初の設定が一人歩きするか、それを修正的に議論する過程で、一定の方向性に引きずられる恐れが否定できないように感じました。そうすると、今ある制度を前提に議論を展開するのではなく、制度

の制定過程を問題とせざるを得ないと考えるに至りました。いわば、小学校や中学校でも行われているルールづくりの延長のような授業案です。

しかし、現実に発生している社会的問題をテーマにしているわけですから、考えなければならぬ要素は、極めて多方面に及びます。また、生徒に、ルールづくりを追体験させることを本気で考えると、現に公務員が直面している全ての問題を俎上にあげる必要が出てきますが、それは大人でも難しいことのように思われ、検討すべき要素をどこまで絞るのか（そもそも、絞って授業になるのか）ということは、相当に悩みました。特に、財源の配分という単純な視点だけに絞り込んでしまうと、形式的平等よりも実質的平等のほうが優れているという結論に至りやすく、それでは、授業として不相当だろうという思いが、常に頭の中にありました。

結果、財源の配分という視点を取りつつも、財源の一部が「コスト」のために消費されてしまう」という視点を持ちだし、そうした「コスト」を払うことに無駄がないかを考えるという形で「効率」の視点を出してみることにしました。…が、気がついてみると、迅速さを欠くという「時間的なコスト」、人手と手間が必要になるという「経費的なコスト」がごっちゃになってしまい、結局、生徒に、明確な思考ツールを提供することが出来ないまま、漠然と検討させるような形になっているように思われ、授業案として成功していると言っているのか、非常に怪しいと言わざるを得ない状況です。

このような次第でして、この授業案は、おそらく失敗作のように思われるわけですが、パネリストの先生方や、視聴されている皆様の知見やご意見をいただき、こうしたテーマで授業を成立させることができるのか、どのような方策を採るのが良いのかについて、私自身も勉強させていただければと考えております。

なお、私の授業案では、「外出規制」には、触れていません。

考えてはみたのですが、一律、全員の外出規制を図って良いのかを、論拠に基づいて真剣に議論しようとする、医学的知見（感染リスクや重症化リスク、伝播可能性）にまで踏み込まないといけないのではないかと疑問を払拭できず、やむなく断念したというのが実態です。結局、主催者の企画趣旨を把握し切れていないということなのだろうと思われませんが、これも私の能力の拙さゆえと、どうかご容赦いただければと思います。

どうぞ、よろしくお願い申し上げます。



給付金配布のルールを考える / 授業案

段階	学習活動	指導上の留意点
<p>導入 【5分】</p>	<p>○定額給付金について、思っていることを何でも述べてもらおう。</p> <p>○国から給付金を給付するための財源には限りがあり、その前提の中で考えるべき問題であることを理解する。</p>	<p>★一種のアイスブレイクである。</p> <p>★生徒が常日頃から思っていることを自由に発言してもらえば良く、特段制限はしない。ただ、その意見の中で、「予算の縛りのある中で…」という形の意見が出てくれば、この部分を膨らませて、展開させる。出なければ、ここは教員が指摘する。</p> <p>「先程、予算の縛りがあるという話が出ましたが、国から出るお金は、皆さんの税金が元になっているわけです。ですので、無限にお金を出せるというわけではなくて、どうしても上限の枠が決まってしまうということを、考えて欲しいと思います。」</p>
<p>展開(1) 【10分】</p>	<p>○全員に10万円という案(A)と困っている人に30万円という案(B)とを、比較検討する。</p> <p>【ワークシートを配付】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらの案が良いか自分なりに考えて、理由とともに、各自でワークシートに記入する。 ・5分ほど考えさせた上で、生徒に発表してもらおう。それぞれの案に従って、板書し、生徒にもワークシートにメモしてもらおう。 	<p>★無から現実を考えると、無尽蔵にプランが出てくるため、ここでは現実でも問題となった2つの案を前提とする。</p> <p>★どちらの案でも問題ないが、自分なりの理由が考えられていることが大切。</p> <p>★この単純な二者択一でも様々な見解があること、視点をかえれば、異なる結論が導けることを体験させたい。</p> <p>★意見に偏りが出る場合も想定されるが、その場合は、そのままにしておいたうえで、展開(2)に回せば良いだろう(授業のテーマによっては、教員が少数派について議論を活性化させるという場合もあるが、この授業案で</p>

		<p>は、政治的中立性の観点から、難しいのではないかとと思われる。)</p>
<p>展開(2) 【10分】</p>	<p>○制度を作る側の立場に立って、決めなければいけないことを考えてみる。</p> <p>・自由に発表してもらおう。 ・出てきた意見を板書し、生徒にもワークシートにメモしてもらおう。</p> <p>○制度を複雑化すると、時間や人件費といったコストがかかる可能性があることを認識する。</p>	<p>★生徒としては、このテーマの場合、給付を受ける側の立場は想起しやすいが、制度を作る側の視点は、なかなか想起できないのではないかとと思われる。余り考えたことのないような視点から、考えるという体験を、させてみたい。</p> <p>「それでは、少し視点を変えて、ルールを作る側の人になりきってみて下さい。実際に、給付金を払おうとした場合、どんなことを決めておかないといけないですか？ 少し難しいかもしれないけど、考えてみよう。」</p> <p>★制度を作る側としては、A案の方が決めるべきことは少ないが、それでも考えるべきことがある。B案の場合、A案に加えて、さらに突っ込んだ制度を作らないといけない。</p> <p>(例) Aの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口座情報の集め方 ・振込単位（個人か世帯か） ・請求の方法 ・本人確認の要否・方法 ・ネット請求の可否 <p>Bの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記Aの全部 ・「困っている人」の定義 ・「困っている人」の確認方法 <p>★生徒の側から意見が出てこないか、又は意見が出にくいことが予想される場合は、まず、Aをまず考えさせて、次にBを考えさせるという形が良いと思われる。</p> <p>★予算は有限であるから、コストが大きくなれば、国民に回るお金の総額は小さくなる上、迅速性が減少する（効率性の減少）ことに気づかせたい。</p>

		<p>★ただ、生徒がそこに気がつくことが出来ない可能性もある。その場合は、教員の側から、示唆する発言をしたほうが良いように思う。</p> <p>「Bの方が決めないといけないことが多くなりそうだけど、決めるのには時間がかかりそうだね。それに給付金を払うときに、チェックすることが多くなりそうだけど、そうすると人もたくさん必要になるよね。制度を決めようとする、そういうことも考えないといけないんじゃないかと思うけど、そこは、どう思うかな？」</p>
<p>展開(3) 【20分】</p>	<p>○妥当な制度を自分たちで考えてみる。</p> <p>【班に分かれて評議】</p> <p>○各班に、ルールを発表してもらおう。</p>	<p>★検討させるにあたり、予算には上限があるということ、そして展開(1)、展開(2)で出てきた視点から考えてみるよう指示する。</p> <p>★学校の実情に応じて、A案かB案かを選ばせるだけでも良いし、これに加えて具体的な制度設計をしてもらうという方法もある。</p> <p>★困っていない人にお金がわたることは実質的平等の観点からすれば問題とも言えるが（公正の視点）、とはいえ、理想を貫こうとすればコストが多くなる（効率の視点）。どこでバランスを取るべきか。</p> <p>当然ながら、正解のない問題であるが、現実世界の公務員と同様、制度を作る側の悩みを体感してもらうことだけでも有効なことではないかと思う。</p> <p>★様々な見解が出ると思われるが、偏ったとしても、効率と公正の視点を前提に考えられることが出来ていれば、それで良い。</p> <p>★一番最初の選択と、班で採用された選択とが異なっていた生徒に、感想を聞いてみたい。（意見が変わった理由。意見が変わっておらず、班の多数決に従ったという場合は、班の議論に対する自分なりの感想や反論等。）</p>

<p>まとめ 【5分】</p>	<p>○無駄がなく、多くの人が納得できる制度を作るには、様々な視点から考えないといけないことを理解する。</p> <p>○制度を作るに際して正解はなく、それに対する様々な意見についても、それが論拠に基づく理性的な意見である限り、正当なものであるということを理解する。</p> <p>【オプション】</p> <p>※ 外部講師が2つの見解に分かれて、模擬討論を展開する。</p>	<p>★生徒の何人かから、授業の感想を発言させ、教員の側でそれを総括する。</p> <p>★正解がない問題であるということは、それに対する意見についても、正しいとか間違っているという絶対的な評価を下すことができないということである。（ただ、意見に説得力を持たせるには、ただ感情的に何かを言えば良いというわけではなく、今回の授業で、一人ひとりが一生懸命に考えたように、論拠を持たせることが必要だということを、何らの形で伝えられればと思う。）</p> <p>★発表者が所属する愛知県弁護士会では、複数の弁護士が学校現場に訪問し、複数の立場に立って、生徒の目の前で討論するという授業が多く展開されてきた。生徒からすれば、弁護士は、「ちゃんとした意見を言う人」という印象になるかと思われるが、その弁護士が全く違う方向から、ともに納得できる主張を展開するのを見ると、「これは本当に正解のない問題なんだ」ということを、より実感しやすくなるという効果がある。また、複数の弁護士がそれぞれの見解に立って、等しく意見を述べる手法であるため、本件のような現実的な問題を扱っても、政治的中立性の問題は発生しないというメリットもある。</p>
---------------------	--	---

※ 授業案自体は、第1時で完結する形にしていますが、時間的余裕がなくなるため、展開(2)までを第1時、展開(3)以降を第2時とするほうが、検討する時間を十分に取ることができ、充実した議論が出来るのではないかと思います。

給付金配布のルールを考えてみよう

A案 国民全員に、一律、10万円を給付する。

B案 国民のうち、困っている人を対象に、30万円を支給する。

1 あなたは、どちらの制度がいいと思いますか？

A案 ・ B案

【理由】

☆ クラスの意見を聞いてみよう

A案が良いという理由

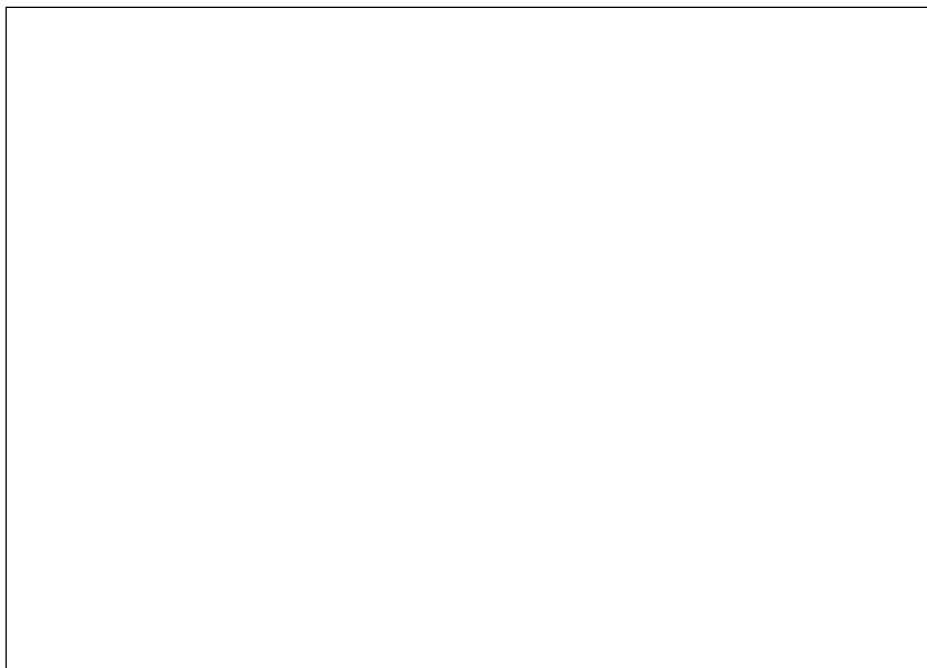
B案が良いという理由

2 制度を作る側の立場で考えてみよう

(1) A案を実行するには、どんなことを決めないといけない？

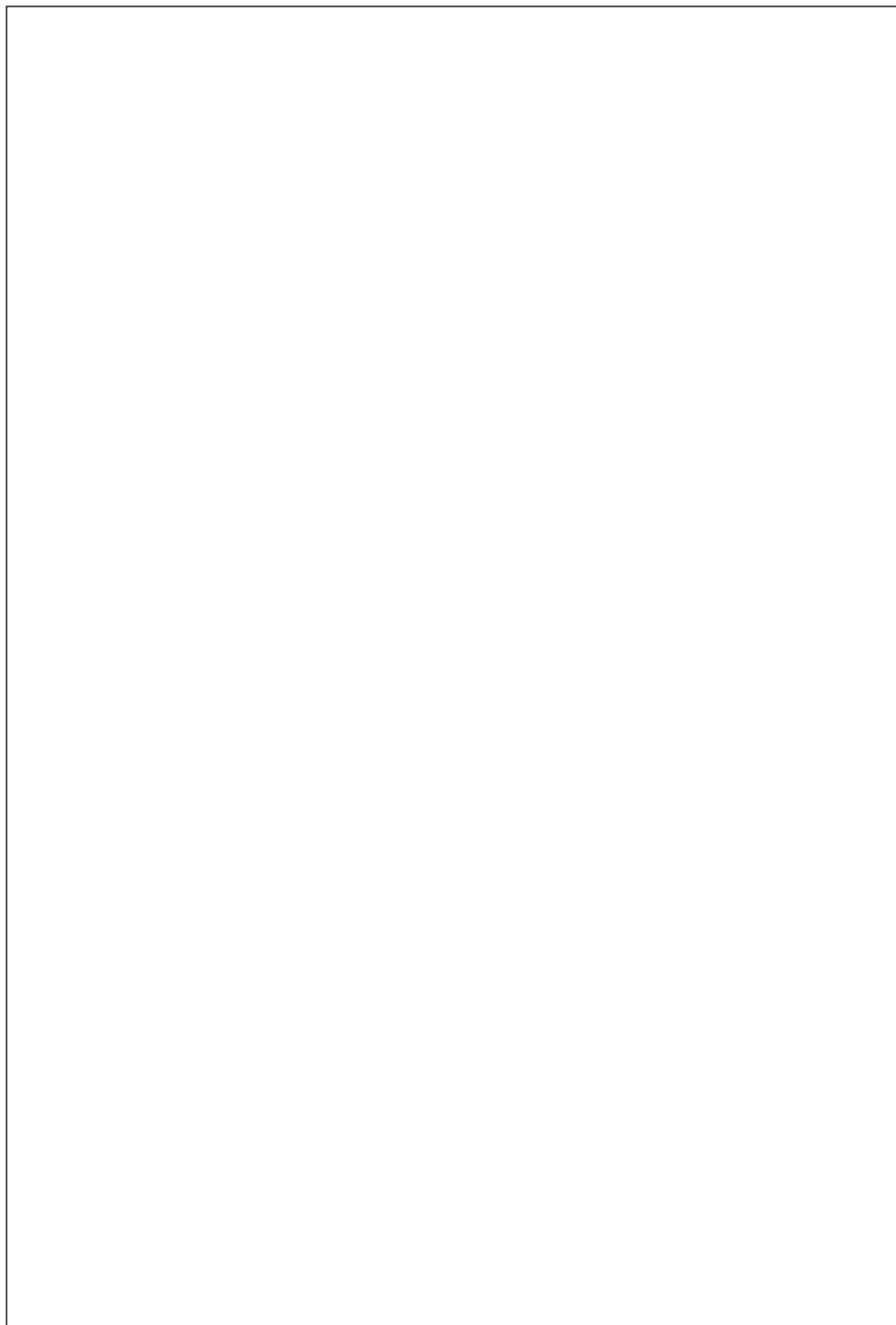


(2) B案を実行するには、どんなことを決めないといけない？



3 どちらの制度が良いか、班でまとめて考えてみよう。

【班のメンバーの意見をメモしておこう】

A large empty rectangular box with a thin black border, intended for taking notes on the opinions of group members.

【班で決めた結論】

A案 ・ B案

☆ 班で考えた制度の運用ルールなど



【そのように考えた理由】

